

No. 143

会報いづみ

発行／公益社団法人 昭島市シルバー人材センター 編集／広報委員会



上:地域に貢献する第3回ふれあい祭り会場。人気トップはやはり模擬店? 左下:恒例のフラダンスに拍手喝采!
右下:会場入口には今回も手作り看板が!

〒196-0022 東京都昭島市中神町2丁目32番18号
 電話 042-544-7060 FAX 042-543-9272
 ホームページ : <http://www.akishima-sc.or.jp>

会員数	男性	女性	合計
(平成25年9月30日現在)	813人	255人	1,068人

理事・地域班長全体会議が 開催されました

第3回定時総会後の新体制による最初の全体会議が、9月11日昭島市市民交流センターで開催されました。

理事17名、地域班長53名中29名が出席し、藤森理事の司会で重要テーマの説明と意見交換が行なわれました。

会議に先立ち、8月30日に逝去された田中幹雄常務理事を追悼して、黙祷を捧げました。

◎会長あいさつ

黒岩会長から、景気は上向きではあるが、潤っているのは一部の大企業だけで、センターを取り巻く環境は依然として厳しく、引き続き皆さんの協力をお願いしたいとの挨拶がありました。

◎昭島市シルバー人材センター現況について

伊藤副会長から、資料に基づいて7月末の事業実績・8月末の会員数・職群班長全体会議の概要・会員増強検討委員会の施策・企業訪問・就業率等について報告されました。

◎作業部会・委員会の活動内容について

○総務部会（伊藤部会長）

平成25年度総務部会事業計画について説明があり、その中で会員増強の一環として、PR用の印刷物を全戸配布することを計画しているとの報告がありました。

○事業部会（奥山部会長）

センターの会員が就業している7カ所の幼稚園・保育園に、ご挨拶とお礼に伺ったとの報告がありました。

○広報委員会（岡委員長）

センターのホームページを拡充するため、サーバーの容量を増量することを検討しているとの報告がありました。

○安全管理委員会（田内委員長）

事故状況・第一回安全就業巡回点検実施状況・安全支援員会議実施概要等について報告されました。

◎昭島シルバーふれあい祭りについて

長澤実行委員長から、実行委員会で決定された実施概要が説明されました。

3回目を迎える今回は模擬店・イベントともに一層楽しいものにするので、祭りを盛り上げるために、多くの参加者を動員していただきたいとの協力依頼がありました。

◎職群班長全体会議について

伊藤総務部会長と奥山事業部会長から、新設されたこの会議を8月8日に開催し、大変有意義であったとの報告がありました。

最後に意見交換があり「市の老人会で米寿（88歳）を祝って、一人ひとりの記念写真を撮っているが、この撮影をセンターの事業としてやったらどうか」との意見がありました。相手があることなので今後の課題となりました。

保育園・幼稚園事業所訪問

事業部会

例年通り今年度も、事業部会員、家事援助班員が手分けして、保育園・幼稚園事業所訪問を実施しました。これは各園での、朝夕の通園時見守り業務についてのものです。現行9事業所で就業しています。

今回は7つの保育園・幼稚園へ訪問。常日頃の発注に対するお礼のご挨拶と、会員の就業状態のチェック、今後の仕事の継続発注依頼が主な目的でした。各園ともに、センター会員の就業内容は概ね好評で、来年度へ向けての展開を確認することが出来ました。

●安全就業推進大会

今年も安全就業推進大会が、安全管理委員会により開催されます。

日時は11月6日13時30分から。①今年度安全就業標語を作った3名の会員の表彰。②「笑いヨガ」というユニークな健康法の、NPOラフターヨガジャパンメンバーによる講座。③4名の会員による独自の安全対策や、ヒヤリとしたリハットしたりの実験談「就業体験発表」の3部構成が予定されています。



訃報
田中 幹雄 常務理事

7月中旬より入院加療中でした田中幹雄常務理事が、8月30日急逝されました。享年71歳。10年以上にわたり、昭島市シルバー人材センターの発展、運営にご尽力を頂きました。ご冥福をお祈りいたします。なお葬儀に於いては、黒岩会長よりセンターを代表して弔辞が述べられました。

● 常務理事に奥山毅理事



田中前常務理事の急逝により、空位となっていた常務理事職。

9月30日の定例理事会において、理事17名の互選により、奥山毅理事が選任されました。主に会長及び副会長を補佐し、センターの業務を執行する等の重責ですが、現任の事業部会長の兼務も、理事会の懇願により決定しました。

職群班長全体会議開催

各班別就業内容の差を埋めたい！

総務部会・事業部会

8月8日第1回職群班長全体会議が、1階会議室で開催されました。

現在24ある職群班から代理を含む全班長、及び会長以下理事10名が出席。①就業基準について②内規の制定・改定について③就業状況確認書(案)について議論いたしました。

①ではセンターの就業基準について、事務局より3ヶ月経過後の再契約、再契約不可の詳細説明がありました。さらに、職群班組織設置要綱で職群班長の立場が明確にされました。

②では、24ある職群班中4班しか制定されていない内規を、事務局制作のサンプルに従って各班とも作ろうということになりました。

③では、各班の就業状況に違いがあるため、統一の書面作成が難しいなどと議論が沸騰。事務局提案の個人別書面に対し、一覧表形式ではという意見も尊重。次回までに、書式も含めて再考することとなりました。

また、各班別の内情の報告等があり、その差を埋める努力の必要性が認識されました。さらに、深刻な道路除草班の人手不足対策などが、今後の検討事項とされました。

一つの合言葉を

安全管理委員長 田内 實



会員の皆様にご挨拶を申し上げます。

日頃は昭島市シルバー人材センターの安全管理活動にご理解とご協力をいただき誠に有難うございます。皆様のご協力のもとに全員一致協力して《事故ゼロ》を目指して取り組んでおりますが、残念ながら事故は一向に無くなりません。状況が続いております。

一般の企業も勿論そうですが、シルバー人材センターは特に「事故はゼロが当然」と私は考えております。この事故ゼロを達成するために私は次の二つの事を会員の皆様に訴えていきたいと思っております。

一つは《安全はすべてに優先する》であります。何かを計画したり、行動を起こそうとする時は、まず安全を確保してから始めてください。

もう一つは《安全は自己管理である》であります。会員が1,100名で事故が何件・発生率が何%といってもあまり意味がありません。

会員一人ひとりにはかけがえのない人であり、事故はその人・その家族にとっては100%全てであるからです。

この二つの合言葉を《馬鹿の二つ覚え》と言われるまで言い続け事故ゼロに少しでも貢献できるように努力して参ります。



パトロール・ボランティア活動に感謝!!

昭島市教育委員会教育長

木戸 義夫

日頃より、多くの会員の方にパトロールボランティア活動にご協力いただき、大変感謝申し上げます。

東京都が調査した、区市町村の通学路の見守り実施状況調査によると、多くの地域で、シルバー人材センターの方々の活動により、児童・生徒の安全が守られていることがわかります。

通学路で児童・生徒はいつ、事件や事故に巻き込まれるかわかりません。けれども、皆さんの温かな見守りや声掛けといった活動が、子ども一人一人の笑顔につながる事は確かです。皆様方ご自身の健康と安全にもご留意いただきながら、引き続き活動への温かなご協力をお願いいたします。

10月はパトボランティア強化月間

基本方針等を決定!

パトボラ実行委員長

清水 辰男



パトロールボランティア実行委員長を努めさせていただきます清水です。

9月4日センター1階会議室にて、パトロール・ボランティア実行委員会を開きました。6地区から各2名(うち1人は学校管理業者)選ばれた委員に、事業部会からの私とで13名が出席しました。

当センターのパトボラ登録者数は394名で、これは全会員数の36・3%にあたります(4〜7月実績)。うち実際に活動した会員は各月平均で277・5名。登録者数の70・4%という数字がまず報告されました。約30%、100名ほどが活動してないことになりました。



平成24年度実績

中学校地区名	登録人員(人)	活動実人員(人)	活動延人員(人)
昭和中学校地区	79	26	2,641
福島中学校地区	31	23	3,359
瑞雲中学校地区	59	43	3,258
清泉中学校地区	100	66	7,460
拝島中学校地区	67	58	3,191
多摩辺中学校地区	59	52	2,021
計	395	268	21,930

登録率36%、活動率73%、一人あたり月7~8回活動

そこで活動できなかった会員にアンケートしたところ、大半は、本人家族の病気が理由となっていました。しかし一方で、活動の具体的実施方法や、グループ活動の指示が不徹底だった点が浮き彫りともなりました。

これを是正するため、パトボラ強化月間を前にして、年間を通じての全体計画を練ることにしました。まず基本方針と実施計画を策定し、各会員の役割分担を明確にしました。そしてこれに基づく活動計画を作ることにし、現在、各委員が各地区に持ち帰って、計画案を練っているところです。

まずは実行委員会からの指示不徹底を反省した形です。が、本当の意味でのボランティアが定着しているとはいえない日本で、会員総数の36%が登録し、その70%が活動しているという事実は、誇りにしていいと自負しております。

パトボラ体験インタビュー①

自分の健康のためにも頑張る!

中神町 川鍋 欣一

今年の厳しかった暑さもなんのその。瑞雲地区で85歳という高齢にもかかわらず、パトボラは「1カ月 10回が目標」とおっしゃる、元気はつらつな川鍋(元会長)さんにお話を伺いました。

Q パトボラはいつからですか。



A 10年位前でしようか。当時は腕章や帽子、ベストもなく自主的なものでした。最初の頃、子どもたちも「見慣れないおじさんとは話さないように」と言われていたのか、会話もなく寂しかったですよ。最近は「こんにちは」と笑顔を向けてくれるのが嬉しいですね。

Q パトロールをどう考えておられますか。

A もちろん「子どもの安全確保」と自分自身の安全です。体力、気力を考えると無理はできません。自分のペースでパトロールできるので、健康のためにもこれからも続けていきますよ。

Q 今後の要望としてなにかありますか。

A 幸い私に事故はありませんでしたが、そうした実績の報告を「いずみ」などに載せていただければ、励みになると思います。

パトボラ体験インタビュー②

仕事とボランティアの2本柱

宮沢町 宮崎 好子

平成17年シルバー人材センターの設立30周年記念事業として、現在のパトロールボランティアが立ち上げられました。この活動に最初から参加している宮崎好子さん。地域住民の一人として、自分に甘えることなくつつじが



丘で週1回、児童の下校時に合わせチームパトロールに参加しています。

「何か地域貢献したい」の思いで活動を始め、早いもので8年目になります。センターの会員として就業だけを考えることなく、仕事とボランティアを2本柱にした、活躍を続けているそうです。ボランティア活動を通じて児童との「ふれあい(笑顔)が何よりの活力・癒しになっている」とのことです。

健康管理にも気を使い「朝は5時に起床し、午後7時以降は食事はとらない」日々。月1回は病院で健康チェックをするなど自分に厳しい反面、時には友達とランチをし、自分へのご褒美も忘れないそうです。

また人生の引き際を迎えたとき、「ピンコロ」と終わりたいよネ、と語ってくれました。

変更届忘れていませんか?

緊急連絡ができない!?

会員の皆様には会員登録の際、ご自身の住所・電話番号のほかに、緊急連絡先の登録も行っていたいております。

原則、自宅とは別にお住まいの、ご子息、ご兄弟などの電話番号(同居の方の場合は携帯電話番号)がそれです。これは就業中、または就業の行き帰りで事故に遭遇し、緊急入院などをした場合の自宅への連絡がつかないときに連絡先が必要となるからです。

ところが、案外忘れがちなのが、この緊急連絡先が変更になった場合の届けです。ご子息・ご兄弟が引越されるなどはまああるはずですが、しかしこれをお届けいたただかないと、センターではご家族への緊急連絡が不能となってしまいます。現実に、緊急連絡が取れないケースがいくつありました。

お手数でも、連絡先が変更になった場合、すみやかに事務局にお届けいただくようお願い致します



(電話連絡も可能です)

仕事場探訪「イキニコ教室」
「おもしろ歴史散歩」講師

**ご夫婦で
イキもピツタリ
趣味を生かしています!**

市内の史跡をウォーキング!

高齢男女が20人ほど、市内の裏道を三々五々歩いていきます。ときおり、一行は止まってひとかたまりに。よく見るとかたまりは、小さな路傍の石碑を囲んでいます。かたまりの中心にいる男性が、なにごとかを解説しています。少し離れた場所では、やや背の高い女性がパンフレットの写真を指さしています。

これは昭島市が主催し、シルバー人材センターが講師を選任するなどの運営をする「イキイキ・ニコニコ介護予防教室」の、「おもしろ歴史散歩」講座の一シーン。



市内に残る古道を主に歩く教室で、言い伝え、石碑、モニュメントなどをたどって、一味違うウォーキングを愉しむというものです。人のかたまりの中心にいるのが、五十嵐正行さん、恵子さん夫妻。この教室の講師を、

シルバー人材センターの仕事として務めています。

歩きながら史跡を面白がる

シルバー人材センターは全国に1300以上、東京都には58あります。どこにも夫婦で会員登録されている方はたくさんいます。が、夫婦で同じ仕事の同じ現場に就業しているケースは珍しいのではないのでしょうか。講座は教室を使った座学が2回、ウォーキングを兼ねた歴史散歩に出るのが10回というスケジュールで、毎週水曜日に行われています。教室での座学は、昭島市の近代に詳しい市役所勤務の三村章さんが担当。10回の散歩を五十嵐夫妻が担当しているのです。

「歴史が好きで、ウォーキングという散歩が好きで、名もない地味な史跡でも面白がる。そんな私に、ピツタリの仕事ですね」と正行さん。3つのポイントを、一気に解決できるのに魅力を感じたという。元々、夫妻で市の観光協会のナビゲーターを務めていて、この講座のようにガイドしながら歩くことに違和感はなかったんだとか。それとは別に、夫妻はシルバー人材センターの会員でもあった。それらの条件が重なって、「シルバー人材センターから、イキイキ・ニコニコ介護予防教室で講座を開きませんかという話があり、お引き受けしました」



毎回の受付や、歩いている人の人数チェックなど、事務的なこともこなす恵子さんは、講座開設の経緯を説明してくれました。夫妻を見ると、講師役を兼任しているのがひしひしと伝わり、受講の高齢者にもそれが伝染して和気あいあいと散歩を愉しんでいます。

「ちなみに、夫婦でシルバーとおっしゃいますが、うちは父（三郎さん）もシルバーで就業していたんですよ」と正行さん。「ええ、広報を配っていたんです」と恵子さん。夫妻どころか、親子でもシルバー会員だったのです。

おもしろ歴史散歩コース

市内を10回に分けて歩くこの講座。その散策コースは、●拜島分水から北泉寮●堀向集団移転地後●九ヶ村用水取水口●八高線鉄橋とアキシマクジラ●拜島江戸街道を歩く●ぼたもち街道を採す●野水堀に沿って●中神駅から中神坂・中沢堀へ●郷地の大坂を上がつて●大山道から多摩川渡しへ…となっています。



ちよつといい話

「ふれあい祭り」スペシャル

檜原村のこんにやく

今回初めて模擬店に「こんにやく（味噌田楽・煮玉）」が登場しました。

橋本事務局長の提案で実現した「名物檜原村特産手造りこんにやく」での健康レシピとなりました。生芋を昔ながらの製法で丹念に練りあげたもので、味浸みが良く確かな歯ごたえで美味しく出来上がりました。

中でも「煮玉こんにやく」が大好評で売り切れ御免となりました。

新橋演舞場か はたまた明治座か

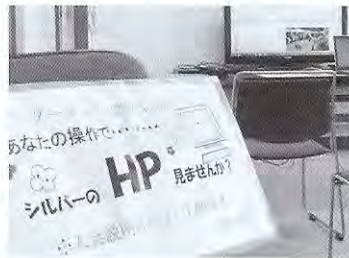
今年はず年までのブルーシート舞台を卒業して、本格的な舞台になりました。「今年番良かったのが、舞台だね」「すごく演技が映えてよかったわ」。演技者からも「気持ちよく楽しく演技できました」との声。大人数の体重にも負けない、舞台製作を担当されたのは「植木班」の方々です。「有難う！」

シルバールの ホームページを見ませんか？

広報委員会は新たな試みとして、映像制作班作成の入会説明ビデオ

上映とあわせ、シルバールのホームページを直接アクセスしていただけるようコミュニケーションに大型モニターを設置し、最新のパソコンをインターネットに接続させました。

当日は17名の来訪者があり、9名の方が実際にパソコンの操作をしました。パソコンが初めての人もタッチパネルの操作には興味深々で、また親御さんと一緒の小学生は、ホームページではなく組み込んでおいた「ドラえもんクイズ」を楽しんでいました（笑）



「相談の日」
毎月第1火曜日
 ◇9:30~11:30
 センター事務所 2階
 ※担当理事が相談をお受けします

編集後記

2020年オリンピックが東京で開催されることになりました。世界のトップアスリート達の活躍を直に目に出来る機会が再び訪れようとしています。

さて、この夏は様々な自然災害がニュースや話題になりました。特に日本地図が赤く染まるような連日の猛暑にはうんざりしたのですが、皆様いかがお過ごしでしたか？

季節は確実に移りつつあり、二十四節気では「寒露(かんろ)」、「霜降(そうこう)」と秋が深まってきました。

第3回「昭島シルバーふれあい祭り」も実行委員および会員皆様の協力のもと「会員作品展 示会」とあわせ、多くの会員・地域の方々に楽しんで頂けたのではないのでしょうか。

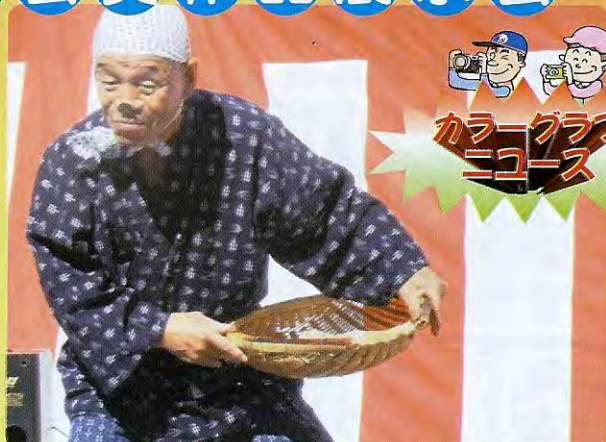
「天高く馬肥ゆる秋」です。体は勿論気持ちをいつまでも若く肥やしていきたいものです。

広報委員会 折居弘昭

ふれあい祭り & 会員作品展覧会



同時開催の作品展覧会は今年17回目



カラオケコース

都大会で入賞歴もある野島会員の「どじょう掬い」



経昭島市シルバーセンターの幟旗も元気よくなびいて景気付け



開会宣言直後、まず全員が気功でリラックス



陰の主役、臨時駐輪場整理担当の会員



理事・地区班長会議は熱気に溢れた(右)



「ふれあい祭り」概要説明に立つ長澤理事



高齢者の不自由さを模擬体験もみじ体験講習会



ボランティアでセンター北庭の樹木剪定をする植木班



音入れ作業に集中する映像制作班

安全就業標語

安全は 人に頼るな 自己管理